

法令及び定款に基づくインターネット開示事項

連結株主資本等変動計算書

連結注記表

株主資本等変動計算書

個別注記表

(2020年4月1日から2021年3月31日まで)

株式会社 **シーティーエス**

「連結株主資本等変動計算書」及び「連結注記表」並びに「株主資本等変動計算書」及び「個別注記表」につきましては、法令及び当社定款第14条の規定に基づき、当社ウェブサイト (<https://www.cts-h.co.jp/>) に掲載することにより株主の皆様提供しております。

連結株主資本等変動計算書

(2020年4月1日から
2021年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計
当 期 首 残 高	425	2,399	5,457	△460	7,821
当 期 変 動 額					
剰 余 金 の 配 当			△520		△520
親会社株主に帰属する 当 期 純 利 益			1,456		1,456
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）					
当 期 変 動 額 合 計	-	-	936	-	936
当 期 末 残 高	425	2,399	6,393	△460	8,758

	その他の包括利益累計額		純資産 合計
	その他有価証券 評価差額金	その他の包括利益 累計額合計	
当 期 首 残 高	20	20	7,842
当 期 変 動 額			
剰 余 金 の 配 当			△520
親会社株主に帰属する 当 期 純 利 益			1,456
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	10	10	10
当 期 変 動 額 合 計	10	10	947
当 期 末 残 高	31	31	8,789

連 結 注 記 表

1. 連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記等

(1) 連結の範囲に関する事項

① 連結子会社の状況

連結子会社の数	2社
連結子会社の名称	株式会社レンタライズ 株式会社CTSラインテック

② 非連結子会社の状況

非連結子会社の名称	日本マルチメディア・イクイップメント株式会社
連結の範囲から除いた理由	当該非連結子会社は小規模であり、合計の総資産、売上高、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等は、いずれも連結計算書類に重要な影響を及ぼしていないためあります。

(2) 持分法の適用に関する事項

持分法を適用した関連会社の状況

持分法適用の関連会社数	1社
持分法適用の関連会社の名称	ファイルフォース株式会社

(3) 会計方針に関する事項

① 重要な資産の評価基準及び評価方法

イ. その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定）

時価のないもの

移動平均法による原価法

ロ. たな卸資産

通常の販売目的で保有するたな卸資産

評価基準は原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）

商品

移動平均法

半成工事

個別法

原材料及び貯蔵品

最終仕入原価法

② 重要な減価償却資産の減価償却の方法

イ. 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法を採用しております。ただし、1998年4月1日以後に取得した建物（建物附属設備を除く）及びレンタル資産、2016年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

レンタル資産

3～7年

建物

5～50年

ロ. 無形固定資産（リース資産を除く）

市場販売目的のソフトウェアについては、見込有効期間（3年以内）における販売見込数量を基準とした償却額と残存有効期間に基づく均等配分額とを比較し、いずれか大きい額を償却しております。

自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

ハ. リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とした定額法を採用しており、残存価額については、リース契約上に残価保証の取決めがあるものは当該残価保証額とし、それ以外のものは零としております。

③ 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

④ その他連結計算書類作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

2. 表示方法の変更に関する注記

(「会計上の見積りの開示に関する会計基準」の適用)

「会計上の見積り開示に関する会計基準」(企業会計基準第31号 2020年3月31日)を当連結会計年度末に係る連結計算書類から適用し、連結計算書類に重要な会計上の見積りに関する注記を記載しております。

3. 会計上の見積りに関する注記

関連会社株式に係る評価

- ① 当連結会計年度の連結計算書類に計上した金額

ファイルフォース株式会社に係る当社持分の株式評価額：264百万円

- ② 会計上の見積りの内容に関する理解に資する情報

当社は、クラウドストレージサービス事業を手掛けるファイルフォース株式会社とシステム事業におけるITインフラサービスの連携を図るため、ファイルフォース株式会社を持分法適用関連会社とし、のれん相当額を含めて関連会社株式を計上しております。当社では、のれん相当額を含む資産の減損の兆候判断にあたっては、対象会社の取得時に見込んだ事業計画の達成状況を確認することにより、超過収益力の毀損の有無を判定しております。

事業計画はファイルフォース株式会社の取締役会等で承認された中期経営計画に基づいており、主として以下の仮定をしております。

- ・新規案件については、営業活動の強化、ファイルフォース株式会社の知名度向上や機能充実、次世代サービスの開発等により販売区分ごとの新規契約獲得及び契約単価を見込んでおります。既存案件については、機能充実や次世代サービスの開発により契約単価や追加サービス等による売上拡大を見込んでおります。
- ・過去の実績から売上金額に対して一定の解約率を見込んでおります。

これらの見積りにおいて用いた仮定について、売上が想定より伸び悩むこと等により見直しが必要になった場合、翌連結会計年度において、関連会社株式の評価に重要な影響を及ぼす可能性があります。

4. 連結貸借対照表に関する注記

有形固定資産の減価償却累計額

3,029百万円

5. 連結株主資本等変動計算書に関する注記

(1) 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数 (株)	当連結会計年度 増加株式数 (株)	当連結会計年度 減少株式数 (株)	当連結会計年度 末株式数 (株)
発行済株式				
普通株式	43,400,000	—	—	43,400,000
合計	43,400,000	—	—	43,400,000
自己株式				
普通株式	720,845	—	—	720,845
合計	720,845	—	—	720,845

(2) 剰余金の配当に関する事項

① 配当金支払額等

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2020年4月30日 取締役会	普通株式	264	6.20	2020年3月31日	2020年6月1日
2020年10月31日 取締役会	普通株式	256	6.00	2020年9月30日	2020年12月6日

② 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度になるもの

決議予定	株式の種類	配当の 原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2021年4月30日 取締役会	普通株式	利益剰余金	341	8.00	2021年3月31日	2021年6月1日

6. 金融商品に関する注記

(1) 金融商品の状況に関する事項

① 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については短期的な預金等に限定し、また、設備投資は主にリース契約を利用しております。

② 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、取引先の信用リスクに晒されております。

投資有価証券は、主に業務上で関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金、電子記録債務の支払期日はすべて1年以内であります。ファイナンス・リース取引に係るリース債務は、主に設備投資に必要な資金の調達を目的としたものであり、償還日は決算日後、最長で5年後であります。

営業債務、リース債務には、資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）があります。

③ 金融商品に係るリスク管理体制

イ. 信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社グループの債権リスク管理基準に基づき、取引先ごとの残高及び期日の管理を行うとともに、業態悪化による回収懸念の早期把握や軽減に努める体制を図っております。

ロ. 市場リスクの管理

当社グループでは投資有価証券について、定期的に時価を把握し、その内容を取締役に報告しております。

ハ. 資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社グループでは年次及び月次にて資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性を売上高の3ヵ月分相当に維持することなどにより当該リスクを管理しております。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

2021年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表に含めておりません。

	連結貸借対照表 計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 現金及び預金	6,216	6,216	—
(2) 受取手形及び売掛金	1,693	1,693	—
(3) 投資有価証券	53	53	—
資産計	7,963	7,963	—
(1) 支払手形及び買掛金	499	499	—
(2) 電子記録債務	559	559	—
(3) 未払法人税等	378	378	—
(4) リース債務	2,301	2,210	△90
負債計	3,738	3,648	△90

(注) 金融商品の時価の算定方法に関する事項

資産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額に近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

投資有価証券の時価については、株式は取引所の価格によっております。

負債

(1) 支払手形及び買掛金、(2) 電子記録債務、(3) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額に近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4) リース債務

リース債務の時価については、元利金の合計額を同様のリース取引を行った場合に想定されている利率で割り引いて算定する方法によっております。

7. 1株当たり情報に関する注記

(1) 1株当たり純資産	205円94銭
(2) 1株当たり当期純利益	34円14銭

8. 重要な後発事象に関する注記

当社は、2021年4月30日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式を取得することを決議いたしました。

- (1) 理由：経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行及び株主価値の向上を図るため
- (2) 取得する株式の種類：普通株式
- (3) 取得する株式の総数：300,000株（上限）
- (4) 株式取得価格の総額：300,000,000円（上限）
- (5) 自己株式取得の期間：2021年5月17日～2022年3月31日
- (6) 取得方法：東京証券取引所における市場買付け

株主資本等変動計算書

(2020年4月1日から
2021年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株 主 資 本								
	資 本 金	資 本 剰 余 金			利 益 剰 余 金				
		資本準備金	そ の 他 資本剰余金	資本剰余金 合 計	利益準備金	そ の 他 利 益 剰 余 金			利益剰余金 合 計
					固 定 資 産 圧縮積立金	別 途 積 立 金	繰 越 利 益 剰 余 金		
当 期 首 残 高	425	428	1,970	2,399	23	185	108	4,773	5,091
当 期 変 動 額									
剰 余 金 の 配 当								△520	△520
当 期 純 利 益								1,788	1,788
固定資産圧縮積立金の取崩						△1		1	－
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)									
当 期 変 動 額 合 計	－	－	－	－	－	△1	－	1,269	1,268
当 期 末 残 高	425	428	1,970	2,399	23	184	108	6,043	6,359

	株 主 資 本		評 価 ・ 換 算 差 額 等		純 資 産 合 計
	自 己 株 式	株 主 資 本 合 計	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	評 価 ・ 換 算 差 額 等 合 計	
当 期 首 残 高	△460	7,455	20	20	7,476
当 期 変 動 額					
剰 余 金 の 配 当		△520			△520
当 期 純 利 益		1,788			1,788
固定資産圧縮積立金の取崩		－			－
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)			10	10	10
当 期 変 動 額 合 計	－	1,268	10	10	1,279
当 期 末 残 高	△460	8,723	31	31	8,755

個別注記表

1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

(1) 資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券の評価基準及び評価方法

イ. 関係会社株式

移動平均法による原価法

ロ. その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定）

時価のないもの

移動平均法による原価法

② たな卸資産の評価基準及び評価方法

通常の販売目的で保有するたな卸資産

評価基準は原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）

商品

移動平均法

(2) 固定資産の減価償却の方法

① 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法を採用しております。ただし、1998年4月1日以後に取得した建物（建物附属設備を除く）及びレンタル資産、2016年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

レンタル資産

3年～5年

建物

5年～50年

② 無形固定資産（リース資産を除く）

市場販売目的のソフトウェアについては、見込有効期間（3年以内）における販売見込数量を基準とした償却額と残存有効期間に基づく均等配分額とを比較し、いずれか大きい額を償却しております。

自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

③ リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とした定額法を採用しており、残存価額については、リース契約上に残価保証の取決めがあるものは当該残価保証額とし、それ以外のものは零としております。

(3) 引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(4) その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

2. 表示方法の変更に関する注記

(「会計上の見積りの開示に関する会計基準」の適用)

「会計上の見積り開示に関する会計基準」(企業会計基準第31号 2020年3月31日)を当事業年度末に係る計算書類から適用し、計算書類に重要な会計上の見積りに関する注記を記載しております。

3. 会計上の見積りに関する注記

関連会社株式に係る評価

当事業年度の計算書類に計上した金額

ファイルフォース株式会社に係る当社持分の株式評価額：348百万円

当該株式評価にあたっては超過収益力を実質価額の評価に反映しており、「会計上の見積りの内容に関する理解に資する情報」については、連結注記表3. 会計上の見積りに関する注記に記載のとおりでありますので、記載を省略しております。

4. 貸借対照表に関する注記

(1) 有形固定資産の減価償却累計額	2,022百万円
(2) 関係会社に対する金銭債権及び債務	
短期金銭債権	0百万円
短期金銭債務	71百万円

5. 損益計算書に関する注記

関係会社との取引高

営業取引による取引高

 売上高 4百万円

 仕入高 676百万円

営業取引以外の取引による取引高 357百万円

6. 株主資本等変動計算書に関する注記

当事業年度の末日における自己株式の種類及び数

普通株式	720,845株
------	----------

7. 税効果会計に関する注記

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産

未払事業税	12百万円
未払特別法人事業税	12百万円
その他	9百万円

繰延税金資産合計	34百万円
----------	-------

繰延税金負債

固定資産圧縮積立金	△79百万円
その他有価証券評価差額金	△13百万円
その他	△0百万円

繰延税金負債合計	△93百万円
----------	--------

繰延税金負債の純額	△59百万円
-----------	--------

8. 1株当たり情報に関する注記

(1) 1株当たり純資産	205円14銭
--------------	---------

(2) 1株当たり当期純利益	41円92銭
----------------	--------

9. 重要な後発事象に関する注記

当社は、2021年4月30日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式を取得することを決議いたしました。

- (1) 理由：経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行及び株主価値の向上を図るため
- (2) 取得する株式の種類：普通株式
- (3) 取得する株式の総数：300,000株（上限）
- (4) 株式取得価格の総額：300,000,000円（上限）
- (5) 自己株式取得の期間：2021年5月17日～2022年3月31日
- (6) 取得方法：東京証券取引所における市場買付け